

〈授業改善推進プラン 国語科 第3学年〉

<p>1. 国語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを明確に伝えることができるようになる。 <p>(漢字・文法・言語事項・文章の構成や展開などの既習事項を用いる)</p> <ul style="list-style-type: none">・文章の構成を捉えて読むことができる。・国語での学びを他教科や学校生活で活かすことができるようになる。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項の定着ができている生徒が多い。・意欲的に授業に取り組む生徒が多い。・人前で発表することを苦手と感じている生徒が多い。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字や文法などの知識・理解の問題を解答することができる。・説明文において、文章の構成を理解することが苦手な傾向にある。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができる。・授業で必要なものの忘れ物をしていない。・ノートやプリントへの記入をしっかりと行うことができる。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業中に教員の話をしっかり聞いている。・宿題をきちんとしている。・論理や構成を工夫して、文章を書くことがあまりない。・分からないことがあるときに先生に質問することがあまりない。・話し合いで自分の考えを積極的に話すことがあまりない。・新聞記事を読むことがあまりない。 <p>〈学力調査〉</p> <p>○「話し合いの内容を聞き取る」</p> <ul style="list-style-type: none">・相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめること。 <p>○「説明文の内容を読み取る」</p> <ul style="list-style-type: none">・文章の展開に即して内容を捉えること。・文章の構成や展開を捉えること。☆文章の展開に即して内容を捉えること。 <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合いや発表で自分の考えを述べること。・文章の構成や展開を捉えて読むこと。・新聞記事や他者の意見から自分の意見を書くこと。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)前年度の復習を繰り返し取り入れながら授業を展開する。</p> <p>(2)話型や文章の書き方の型を示す。</p> <p>(3)机間指導を行い、記述に困っている生徒には解き方のヒントを伝える。</p> <p>(4)事実と意見を読み分けるために、教科書や新聞記事を活用し、本文の要約に取り組む。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)前年度の復習を繰り返し行うことで、定着することができた。</p> <p>(2)話型や文章の書き方の型を示すことで、自分の考えを伝えることができた。</p> <p>(3)新聞記事を活用した授業を行うことで、事実を捉え、そこから自分の考えをまとめることができた。</p>

〈授業改善推進プラン 社会科 第3学年〉

<p>1. 社会科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>○基礎・基本の徹底</p> <p>社会科で基礎・基本となる用語や、資料・地図からの読み取りなどの技能を身に付けることができる。</p> <p>(例)歴史上の人名や出来事を答える。地形図を読み取る。</p> <p>○概念を理解した上で、説明したり課題を解決したり活用することができる。</p> <p>基礎的な知識・技能を身に付けた上で、それらを用いて説明したり((例)扇状地に果樹園が多い理由を説明する。もし立法、行政、司法の三権が分立していなければ、どのような問題が起こるか予想する)、実際の生活と結びつけて課題解決に結びつけたり((例)歴史上の出来事について、その経緯とさまざまな立場の声を紹介し、その意味を論評する歴史新聞を作成する。ハンバーガー店の店長になったつもりで、駅前のどこに出店すべきかを考えて、企画書にまとめる)することができる。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業でワークシートにしっかりと取り組むことができている。・社会的事象への関心に個人差があり、偏りがある。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・応用的な問題にもしっかりと対応できる生徒と、基礎・基本的な用語が身に付いてない生徒と二極化してしまっている。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートの取組が丁寧で時間がかかる生徒があり、進度についていけない生徒がいる。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業や宿題にはしっかりと取り組むことができている。・家庭での予習・復習があまり定着をしていない。・ニュースを見たり、社会のことで気になることを調べたりする習慣が身に付いていない生徒が多い。 <p>〈学力調査〉</p> <p>○歴史「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」(特に織田信長の政治)、地形図の読み取り、人口ピラミッド</p> <p>☆1年時や2年時の前半に学習したものが身に付いていない。</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・応用的な問題への対応・課題を自ら見付けること・社会的な事象に対する興味・関心を高めること	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)3学年の内容を早めに終わらせ、地理や歴史の総復習を行う。</p> <p>(2)授業の中で、考えたり調べたりする時間を設け、知識や技能を活用する練習を行う。</p> <p>(3)ニュースや新聞のレポートを定期的に宿題にすることで、社会の出来事への興味・関心を高め、学習に対する意欲も高める。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)総復習を行うことで、歴史の流れや地理の基礎的な用語は身に付いてきた。</p> <p>(2)調べてまとめる力は定着している。自らの意見を論理的に述べることに課題が残る。</p> <p>(3)社会的な出来事への興味・関心は高めることができた。ニュースを日頃から気にかける生徒も増えてきた。</p>

〈授業改善推進プラン 数学科 第3学年〉

<p>1. 数学科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な知識や技能を習得し、どの知識や技能を用いるか適切に選択して、自ら問題を解くことができる。・既習事項をもとに筋道を立てて、新たな課題を解決したり、公式を導いたりすることができる。・日常生活において必要な情報を選択・判断し、数学を活用して課題を解決することができる。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業に真面目に取り組む生徒が多いが、発言は少なく、発言生徒に偏りがある。・宿題や提出物に前向きに取り組む生徒が多い。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識や技能を問う問題はできる。・思考力、判断力、表現力を問う問題の正答率が極端に低い。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの生徒が、授業を受けることが「楽しい」と感じられると答えている。・理解のために予習・復習をあまり行っていない。・苦手意識をもつ生徒が多い。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・授業では、先生の話をしっかり聞いている。・授業では、きちんとノートをとっている。・宿題をきちんとしている。・授業のための予習や授業で習ったことの復習をあまりしていない。・授業で分からないことがあっても、先生にあまり質問をしていない。 <p>〈学力調査〉</p> <p>○「1次関数」、「確率」</p> <p>☆「図形の性質」、「データの分布」</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な知識や技能の定着。・既習事項を活用して課題を解決すること。・日常生活における問題において数学を活用して解決すること。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)基本的な知識や技能の向上のため、宿題や小テスト等により反復練習を行う。</p> <p>(2)ペアやグループで学び合うことで、知識や技能の定着を図るとともに、習熟度の差を縮める。</p> <p>(3)既習事項を活用し、生徒が自ら考えて、自力で解決できるような課題を多く取り入れる。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)反復練習により、基本的な知識や技能の向上が見られた。</p> <p>(2)ペアやグループで学び合うことで、知識や技能の定着が見られた。</p> <p>(3)既習事項のヒントを提示することで、既習事項を活用し、自ら考えて、自力で解決しようとする姿勢が見られた。</p>

〈授業改善推進プラン 理科 第3学年〉

<p>1. 理科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>学習指導要領に示された「育成すべき資質・能力」の評価に対する問いについて、教科書「新しい科学」の各単元全章に設定された「Before & After」を活用する。これは、見通しを立てる「Before」と振り返る「After」と位置付けられてある。生徒の意欲を引き出し、学ぶ意味を自覚させるうえで極めて重要な役割を果たす。ノートや chrome book に記録させ、生徒の変容を比較できるようにする。なお、この問いは回答に幅をもたせているため学習前であっても、生徒は既習事項や生活経験などを通して何らかの情報や知識をもっているため、回答が可能であるという点が重要である。この学習によって、深化(変容)を生徒が自覚(自己評価)することが学びに向かう力を促進させる働きをもつ。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組む生徒が多く、発言が多い。 ・観察や実験に興味、関心をもって行っている。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な問題を解答することはできるが、記述式や思考力、判断力が伴う問題への解答の正解率が極端に低い傾向にある。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や学習内容に興味をもつことはできるが、苦手意識をもつ傾向にある。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業をしっかりと聞いて、ノートを取っており、学習内容を理解しているという生徒がほとんどである。 ・宿題をやっている生徒が多い。 ・理科の授業の予習、復習をしている生徒が少ない。 ・自然科学に興味をもって本を読んだり、テレビ番組を見たりする生徒が少ない。 <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生物と細胞」と「電流と磁界」に課題がある。 ☆物質の成り立ち、身のまわりの物質とその性質、 ・器具の使用方法について理解が不十分である。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験といった体験や実践に対しては興味、関心をもち積極的に取り組むことができるが、そこから科学的な見方、考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりすることに難しさを感じている。 	
<p>5. 授業改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を喚起し、自然の事物、現象に進んで関わり、主体的に探求しようとする態度を育てるため、自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感させるような場面を設定する。 	<p>6. 成果と評価</p> <p>【成果】</p> <p>学習内容に対し興味をもって、積極的に取り組む姿がより多く見られるようになった。</p> <p>【評価】</p> <p>課題に対し、よく考え表現する場面が多くなった。</p>

〈授業改善推進プラン 音楽科 第3学年〉

<p>1. 音楽科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>(1)学習した内容が、目標とする演奏に役立つことを実感する。</p> <p>(2)学んだことを活かして、表現を工夫することができる。</p> <p>(3)課題を言語化することで、個人及び集団で意識を共有し、演奏の向上に役立てることができる。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <p>・異学年交流を2年間行ってきたことで、後輩への伝え方の工夫をする生徒が多くなっている。後輩に指導するためにも自分が克服しなければならない課題を捉えて練習に向かう生徒が増えた。</p> <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <p>・考査に向けて準備したことが成果として表れている。吹奏楽の振り返りに関しては、楽器練習の自己分析で意識面ではばつきが見られる。</p> <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <p>・活動に対する意欲はあるものの、楽器演奏への不安から、自信をもって伝えたり指導したりすることに躊躇する様子も見られる。</p>	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>異なるパートの楽器練習を自分で進めることができつつある。今後は、自分の練習だけでなく、同じパートや他のグループなどでどのように演奏をまとめていくかについて学んだり経験を積んだりする必要がある。演奏の仕上げ方について、リーダーを中心として意識を高めることで、上級生としての自信を一層もてるようにする。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)グループ練習の方法を生徒自身が定期的に見直す活動を行う。</p> <p>(2)運指練習、録音、メトロノームとチューナーの活用、読譜練習を必要に応じて自分でできるようにして、グループ練習の進行に生かす。</p> <p>(3)選曲の工夫で生徒の意欲を向上させる。自己の練習を効率的に進めて後輩指導の時間に充てるため、1曲は昨年度と同じ曲とし、もう1曲は生徒のアンケート結果を取り入れた曲とする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)特に異学年交流で、昨年度と比べた自身の成長を感じながら音楽活動に生かすことができた。去年、一昨年行ったことを踏まえて、後輩のつまづきやすい点に生徒が気付き、後輩指導だけでなく自分の楽器練習にも生かすことができている。</p> <p>(2)ICT を使いながら、自分の力で楽器練習を進めることができている。</p> <p>(3)選曲の工夫もあり、自己の練習と、最上級生として全体をまとめる活動を徐々に両立できるようになっている。</p>

〈授業改善推進プラン 美術科 第3学年〉

<p>1. 美術科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>知識と技術は制作の両輪である。「わかる」の上位が「できる」だとは限らず、「できる」が先にきて、後から理由付けできて「わかる」になることもある。「わかる」が知識的なものであると考えると、「できる」は技術的なものであると考えられる。知識的なことをスタートとし、一度やってみる。やってみた経験の上に、もう一度知識的な裏付けができ、それを制作につなげることで、知識と技術の関連付けを行う。「わかる」と「できる」が交互に繰り返され、そのつながりが「使える」になるような授業展開を考える。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものを作るのが好きな生徒が多いが、よく考えて作っている生徒は少ない。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識的なことを問う場合は、勉強不足で正答率は高くない。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストの点数をとりたい生徒が多い。努力もそこそこするが、学習の詰めが甘く、点数が伸びてこない生徒が多い。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>時間をかけると良い作品はできる。考えて工夫をすることもできる。しかし、与えられた時間の中で完成させていくことも必要である。生徒によって、作業にかかる時間に幅があるのが現実で、その放課後等のフォローの在り方を考える。また、授業時間を有効に使うということも、大前提として考えていく。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)より良い作品を作るという感覚を伝えたい。納得できるまでやるという生徒が少ないので、少人数の生徒からでも、「やりきる」ということを体験させていく。</p> <p>(2)よく考える、見通しをもつ、計画的に進めるということを、毎時間確認して伝えていく。</p> <p>(3)テストで点数を取ることができないことを気にしている生徒が多い。きちんと学習したら点数がとれるよう、授業できちんと指導する。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)納得できるまで制作するという姿勢に育った生徒が数人出てきた。その生徒たちの取組により、全体的な制作への姿勢が良くなった。</p> <p>(2)生徒が、あと何時間と、意識しながら制作を進めることができた。</p> <p>(3)授業で丁寧な説明をし、足りない部分は補習で補った。鑑賞に興味をもつ生徒も出てきて、学習に対する意欲が高まった。</p>

〈授業改善推進プラン 保健体育科 第3学年〉

<p>1. 保健体育科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>体育の授業では、頭で「わかる」だけでなく、自身のからだで「できる」ことが大変重要となる。しかしながら、体力の実態に個人差があることは事実であるため、個々の生徒やグループの実態に応じた課題を設定し、それぞれが課題解決の経験を多くすることで「できた」という成功体験を積み重ねる授業を展開していく。また、その中で互いに認め合う機会を多くすることが必要となる。</p> <p>保健の授業では、「わかる」だけでなく、行動・実践に移すことが必要となるため、実際の自分の生活などと照らし合わせるなど、自らの生活と関連づける授業を展開していく。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・身体を動かすことへの抵抗や、苦手意識は高くなく、どの生徒も積極的に身体を動かすことができる。 <p>〈考查(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・定期テストの結果からは、授業で触れた知識がきちんと習得されていることがうかがえる <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・定期テスト前に集中して学習する生徒が多いため、継続して学習することができていない生徒が多く見られる。	<p>3. 体力テストの結果について</p> <ul style="list-style-type: none">・男子は立ち幅跳び以外の項目は都や全国平均を大きく下回っていた。握力が平均と同等程度だったため、筋パワーを高めるような補助運動を取り入れていきたい。・女子は20mシャトルランと立ち幅跳びで都や全国の平均を下回っていた。持久力を高める運動を継続的に取り組ませたい。 <p>○…目標値を下回っている内容</p> <p>☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>体力値は、都や全国の平均値と比べても高い数値を示しており、運動に対する意欲も高い。球技や、陸上競技など、特定の単元に特化した技術や体力を習得している生徒が多いため、体育の授業の中で、幅広い分野の運動領域を経験させることで、様々な技術や体力を向上させていく必要がある。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <ul style="list-style-type: none">(1)生徒に応じた課題を設定し、課題解決の経験を多くする。(2)グループ活動など、関わり合いの中での学習活動を多くしたり、ICT 機器を活用したりすることで自他の運動を客観的に評価させる。(3)授業の単元ごとに、関連して高まる体力を解説し、その体力を意識して授業に取り組めるようにしていく。(4)男子は立ち幅跳び、女子は立ち幅跳びと20mシャトルランが全国平均を下回っていたので、補強運動の中に跳躍系の運動を取り入れ、各単元で運動量を多くし、心肺機能を高めていく。	<p>6. 成果と評価</p> <ul style="list-style-type: none">(1)生徒に応じた課題を設定することで、生徒一人一人が自らの目標に向き合い、達成を目指すことで意欲の向上につながり、課題解決の経験を多くすることができた。(2)ICT 機器を活用し、生徒同士で動きを撮影してそれを見合いながら客観的に自他を評価することができた。(3)関連して高まる体力を意識した授業を展開できた。(4)体力テストの結果を踏まえて、生徒たちに今後の体力向上について意識するべき所を伝える。また、小笠原高校にも可能な限りの引き継ぎをできるようにする。

〈授業改善推進プラン 技術科 第3学年〉

<p>1. 技術科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・知識で終わることなく、実践し、改善していくことをする授業を行う。・自分で考え工夫していくことができる授業を行う。	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・好奇心を持って授業に取り組み、製作に積極的を行っている。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・知識や理論について理解が難しい。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <p>楽しく授業を受けることができているが、知識や理論について興味関心が低い。</p>	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <p>知識や理論について授業を始め、少しでも難解な箇所があると、興味関心が低くなり、理解度が落ちる。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)興味関心が高まる教材と関連のある話題を準備する。</p> <p>(2)動画やアニメーションを用いて、わかりやすい教材を準備する。</p> <p>(3)知識や理論が実際にどのように役立っているか実例を用いて説明する。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)生活の身近にある話題と関連付けた教材に対する興味関心は高く、効果的であった。</p> <p>(2)動画やアニメーションは生徒の理解に大いに役立った。今後も活用していく。</p> <p>(3)生活の身近にある話題と関連付けた説明は興味関心が高く、効果的であった。</p>

〈授業改善推進プラン 家庭科 第3学年〉

<p>1. 家庭科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭実践を通して知識・技能の定着をさせる授業 <p>家庭科は、生活に直結する教科であるため、学習した知識や考え方を、生活の中で実践することが、定着に繋がると考える。そのため、家庭実践の機会を多く設けていく。</p> <ul style="list-style-type: none">・考えを表現する機会を多く設けた授業 <p>「家族・家庭生活」「心地よい住まい方」「布を用いた製作」等、答えのない課題について自らの考えに自信をもって表現できるように、意見を発信する機会を多く設けていく。</p>	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none">・話し合い活動や発表活動について、意見を積極的に出すことができる。・作品製作も意欲的に取り組んでいる。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none">・知識をしっかりと理解し、そこから自分の思考・判断・表現につなげることができている。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none">・調理実習や製作、実験に興味関心をもって取り組んでいる。・限られた時間の中で、見直しをもって作品製作をすることを苦手とする生徒が多少いる。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>実施せず</p> <p>〈学力調査〉</p> <p>実施せず</p> <p>○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容</p>
<p>4. 学習の課題について</p> <ul style="list-style-type: none">・見直しをもって作品製作の計画を立てる力や計画通りにいかなかったときの修正力が低い。	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1)授業の見直しをもたせるように、製作の単元のはじめには計画立てを行わせる。</p> <p>(2)毎時間、作品製作の提出日を意識させる声かけを行うとともに、計画表には修正を記入する箇所を設け、計画通りにいかない部分の修正を意識させるようにする。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1)単元はじめに配るワークシートに今後の授業の流れを示したため、見直しをもった製作活動を行うことができるようになった。</p> <p>(2)同じ時間であっても、生徒間で製作にかかる時間に差が出てしまったので、生徒にあった習熟度別の課題を設定できるように、単元はじめに診断的評価を行うようにする。</p>

〈授業改善プラン 英語科 第3学年〉

<p>1. 英語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を使えるようになることを目的として授業を構築している。教科書の内容に関連した資料だけでなく、日常的な話題にも触れ、視座を養いつつ、多様な切り口を提供し、興味をもって学習に臨めるようにしている。 ・応用的な学習ばかりでなく、基礎的な学習も取り入れ、フォニックスや音読を始め、基礎的な文法事項も定期的に扱いながら、らせん状に英語力を培っていきたい。 	
<p>2. 日常の学習状況について</p> <p>〈授業観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことにすぐ取り組めており、課題も期限内に提出することができる。 <p>〈考査(テスト)分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3分の2以上の生徒が学習範囲を理解し、復習に取り組んでいた。話すテストに関しては概ね、よく取り組んでいた。 <p>〈児童生徒の自己評価から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領になり、新しい試みに当初は戸惑いをもっていった生徒も多いが、学習には真摯に取り組んでいる。 	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <p>授業を分かっていると認識している生徒が半数程度になっており、教員に対して質問できないと感じている生徒が4割程度いる。</p> <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読むこと ○書くこと ※とりわけスペリングや文法事項の間違いなく正確に書くこと ☆聞くことのうち、教科書中に登場が少ない表現。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
<p>4. 学習の課題について</p> <p>概ね学習には意欲的に取り組めており、とりわけ目的を理解したときには力を発揮することができる。しかし、よりよい学習に繋げるために自発的に自分に適した学習方法を考えたり、自分の目標を高めていたりすることができる生徒は少ない。英語を学習する目的を自ら考え、行動できることが課題である。</p>	
<p>5. 授業改善策</p> <p>(1) 音読シートを用い、発音やイントネーションを確認した後で、適切に音読することができるかどうかというテストを定期的に行う。また、生徒同士が相互に学び合える活動にする。</p> <p>(2) 基礎的な文法事項の習得を確認できる小テストを、タブレットを用いて定期的に行う。</p> <p>(3) 教員に対して質問できるようにオフィスアワーを設け、授業中に質問できなかったことも吸い上げられるようにする。</p> <p>(4) 自らが目標を考え、行動できるように、振り返りのワークシートを用いる。</p>	<p>6. 成果と評価</p> <p>(1) 音読テストの実施により、生徒自身が目標を設定して取り組むことができた。また活動を通して生徒が相互に学び合うことができた。</p> <p>(2) 小テストを実施することにより、生徒自身が間違いやすいポイントに気を付けられるようになった。</p> <p>(3) オフィスアワーを設けたことにより、授業外でも質問をしにくる生徒の数が増加した。またタブレット等でも、生徒が質問をしたり、教員とともに一緒に考えながら取り組むことができた。</p> <p>(4) 振り返りのワークシートを用いることで生徒が学んだことや達成した目標等を振り返ることができ、自ら行動できる生徒が増えてきた。</p>